

熊本県立球磨支援学校 令和6年度(2024年度)学校評価表

1 学校教育目標						
1 将来の心豊かな生活や社会的自立に向けた態度、知識・技能を育てる。						
2 児童生徒一人一人の能力や適性に応じた教育活動を実践する。						
3 互いに励まし助け合い、たくましく生き抜く児童生徒を育成する。						
2 本年度の重点目標						
1 将来の自立と社会参加を目指した自立活動の推進と共生社会の実現 (1) 本校卒業後を視野に入れた自立活動の推進と進路支援の充実 (2) 交流及び共同学習の充実						
2 一人一人の教育的ニーズを把握し、発達や障がいに応じた教育の推進 (1) 児童生徒の実態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実 (2) 危機管理の徹底、安全・安心を守る教育の推進						
3 基礎的な学力の向上と健康で明るい生活を送るための調和のとれた心身の育成 (1) 人権尊重、人権教育の推進 (2) いじめ防止に向けた取組の強化 (3) 性に関する指導の充実						
4 教職員の専門性・資質・指導力の向上と組織的・計画的なカリキュラムマネジメントの推進 (1) 教科指導や自立活動、日常生活の指導等の専門性の向上 (2) ICT教育の充実・実践 (3) 働き方改革における効果的な教育活動 (4) 不祥事防止の徹底(児童生徒・保護者に寄り添った教育活動)						
5 家庭、地域、関係機関と連携した教育活動の充実 (1) 保護者・地域社会から愛され支えられるパートナーシップ、PTA活動の充実 (2) 関係機関とのネットワーク強化及び地域支援(センター的役割)の充実						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針の具現化	学校教育目標及び重点目標を意識した実践ができたか	・職員一人一人が組織の一員としての意識を高め、重点目標を踏まえた日々の実践に努める。	・学校教育目標及び本年度の重点目標について共通認識を図る。 ・業績評価の面談等において、重点事項を踏まえた目標になっているか確認を行う。 ・各学部、分掌部が昨年度の課題を整理し、重点目標の達成に向けた取組に反映させる。	A	・校長が今年度定めた学校教育目標及び重点目標を意識した教育活動を行うことができた。 ・面談の中で、学校教育目標と各人の目標との整合性について点検を行い確認することができた。 ・昨年度の学校評価の課題を整理した上で今年度の計画を立てた。運営委員会や面談等で進捗を確認しながら各業務を進めることができた。
	働き方改革の推進	学校全体で働き方改革を推進することができたか	・月45時間以上の超過勤務者の割合を15%以下にする。	・労働安全衛生委員会で勤務実態を把握後、具体的な改善策を検討し全職員で共有する。着実な実行に繋がれるよう定期的に朝会で呼びかけを行う。	B	・4、5月、9月～11月は新校舎移転に伴う業務のため全体の20%が時間外在校等時間を超える状況があった。12月時点では11.9%と縮減したが、引き続き経過を確認しながら改善に努めていく。 ・期首面談や衛生管理者

			<ul style="list-style-type: none"> ・各々の意識化を進め、定時退勤日の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期首面談で現状の聞き取りを行い、改善策を衛生委員会で検討する。共通理解を得た上で徹底を進めていく。 		<p>のアンケートを基に協議と検討を行い、勤務管理や業務の調整等について対策を講じた。全体周知し共通理解を得る過程を経て、より改善に繋がるよう継続し努めている。</p>
	業務改善	学校全体で業務改善に取り組むことができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や会議を精選し、業務のスリム化を図る。 ・ＩＣＴを活用した業務の効率化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種々の業務が必要なものか、本質を見つめ直し、行事や業務の精選、内容の改善、簡素化等を行う。 ・分掌業務の再編成を行い、校内分掌業務の改善を図る。 ・Googleカレンダーの全体活用を進める。行事予定や動静の一覧として全員が共有できるツールとして、効果的かつ効率的に活用できるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理者を中心にボトムアップで働き方改革を推進していくプロジェクト「カエル会議」を立ち上げ、会のメンバーや主任主事、管理職と連携しながら業務を点検し、職員室の事務用品の整理や業務のスリム化等の改善を図ることができた。 ・現時点では併用しているが、紙面の行事予定表から、Googleカレンダーへの移行を大きく進めることができた。職員の面談のスケジュール調整でも利便性があり、業務の効率化の更なる推進のため次年度も活用を進めていく。
授業の充実	ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業実践の探究	学部ごとにＩＣＴ機器をどのような場面で活用できるのかを話し合い、個別最適化な学びに繋げることができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のＩＣＴ機器に関する専門性の向上を目指す。 ・学部ごとにＩＣＴ機器を活用した授業実践を蓄積する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ＩＣＴ機器の活用方法について、外部講師招聘研修を行う。 ・ロイロノートスクールの操作及び活用方法に関する研修を行う。 ・分掌部会や全体研修をとおして、探究の目的について共有を図る。 ・ＩＣＴ機器の活用方法や児童生徒の変容について事例検討会を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に外部講師を招聘し「特別支援教育におけるＩＣＴ活用」に関する研修を実施。活用方法、授業実践について理解を深めた。 ・１０月より月１回の頻度でロイロノートスクールのミニ研修会を実施。授業での活用を目的に操作方法を共有し、専門性の向上を図った。 ・７月の全体研修会で研究の目的の共有を図り、年間を通した学部研の中で授業検討及び実践を進めることができた。 ・ミニ研修の中でＩＣＴ機器を活用した授業実践を共有し、検討する場を設定した。事例をとおしてＩＣＴ機器の効果的な活用方法について理解を深めた。

	学習指導の改善とカリキュラムマネジメントにつながる学習評価の充実	全職員がカリキュラムマネジメントを意識し、教育課程の編成及び改善に活用することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な学習評価から授業改善に取り組む。 ・全職員で教育課程の編成及び改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元や授業ごとの学習評価から目標や指導内容、学習グループ等の検討を行う。 ・児童生徒の実態を的確に把握し、学習評価を活用しながら学校教育目標の達成に向けた教育内容になっているかを学部や学年ごとに話し合い、教育課程の編成を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の学習評価を基に、次年度の教育課程について協議や検討を行った。学習評価の手順が学部ごとに様々だったので教務部と研究・情報教育部とで協力し評価方法の見直しを行った。 ・児童生徒の実態から学部ごとに目指す児童生徒像の見直しを行った。その後、目指す児童生徒像につながるよう、学習評価を基に、各学部で次年度の指導内容や単元配列などを検討し全職員で教育課程の編成を進めることができた。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	キャリア教育の視点を理解を深めることができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育で育てたい力を各教科及び領域で取り扱う内容ごとに整理し、授業づくりに生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点で整理した育てたい力を研修等で伝えることで、小、中、高一貫したキャリア教育の推進を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部でキャリアパスポートの取組を行うことができた。年度初めの周知が十分ではなかったため、今後は職員会議等で周知徹底を図りたい。 ・研修や進路だより等を活用して家庭や学校において「育てたい力」について、保護者に啓発を行うことができた。
	進路支援の充実	一人一人の児童生徒に応じた進路指導ができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、職員に向けた進路だより等をとおして情報を発信する。 ・生徒や保護者が具体的なイメージをもちながら実習先や進路先を決められるように、面談を行う。 ・保護者、職員を対象とした進路研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だより、P T A 進路研修等で本校の進路状況や働くために必要な力などの進路情報を発信する。 ・生徒と保護者が事業所の仕事内容や条件を分かりやすく閲覧できる「事業所ガイドブック」を改良し進路面談で活用する。 ・卒業後の進路先に関する職員研修を行い、職員の理解を深めることで生徒自身が自分で納得し進路決定するための指導に繋げる。 ・P T A 進路研修部と連携し、保護者のニーズに応じた研修会を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だより(全学部)やP T A 進路研修報告(全学部)、現場実習説明会(高等部)等をとおして進路情報の提供に努めることができた。 ・事業所の情報をまとめた「事業所ガイドブック」の内容を改良し、進路面談で活用し好評を得ることができた。 ・職員向けに「高等部卒業後の進路」について研修を行った。卒業後の進路先や福祉事業所、現場実習、進路面談等について職員の理解を深めることができた。 ・P T A 進路研修を定期的に開催した。保護者の要望に応じて、障害年金や卒業後の進路先について研修をしたり、施設見学を行ったりして、進路に関して理解を深めることができた。

				<ul style="list-style-type: none"> ・高等部3年生の進路決定においては、ケース会議を行い、組織的に生徒の適性と進路先を検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者の願いを丁寧に聞き取り、関係機関と連携しながら、卒業後の進路先につなげることができるよう進路指導を行うことができた。
生徒(生活)指導	問題事案、問題行動の未然防止	生徒指導等に関わる情報を共有し全職員の共通理解のもとで生徒指導を実施することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で一貫した生徒指導ができるよう全職員の共通理解を図る。 ・生徒指導上の問題事案等について、職員間で情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や全体朝会等を活用し、生徒指導に関する指導事案や指導例を周知する。 ・分掌部会で生徒指導に関する情報共有を行い、職員間での共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校児童生徒の指導上の課題について、外部専門家からの助言を周知することで一貫した指導にいかすことができた。 ・分掌部会において、生徒指導に関する事案の情報共有を行い、指導支援の方向性について共通理解を図ったことで、組織的な対応ができた。
	安全な登下校指導及び関係機関との連携	新校舎において児童生徒が安心して登下校を行う体制を構築することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・自力通学生に対する登下校指導と通学路の安全確認を徹底する。 ・利用する児童生徒が安心して通学バスを利用できるよう、体制の調整を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な登下校指導に加え、警察署やPTAと連携した登下校指導を行う。 ・バス会社との情報交換会、学期ごとの乗車指導、保護者向けの説明会を実施し、運行において安全かつ安心な乗車体制を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・主にバス停からの通学路の危険箇所を確認し、生徒、保護者、職員で共通理解を図った。警察やPTAと連携し登校指導を行うことで安全上のポイントを的確に指導でき安全な登下校につなげることができた。 ・添乗員との情報交換や児童生徒の状況に合わせて乗車指導を適宜行い、安心で安全な乗車体制を整えることができた。
	発達支持的生徒指導に関する取組	集団生活を送る上で必要なルールやマナー、周囲と協力する態度を育むことができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が、集団生活や生活目標を意識した学校生活を送ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会での生活目標発表時に、集団生活における注意点について理解が進むよう担当教師が解説を行う。 ・分掌部会で、生活目標が児童生徒の実態やニーズと合っていたか検証する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会時に、生活目標の達成状況を発表する場を設定した。目標をより意識して生活する姿が見られた。 ・各月の生活目標について児童生徒の実態やニーズ、学校行事、季節の視点で妥当性を検証し、次年度に設定する生活目標の参考とすることができた。
人権教育の推進	人権教育に関する取組	人権教育の推進はできたか 児童生徒にとって理解しやすい人権教育の授業実践ができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で人権教育を推進する体制を整える。 ・職員研修をととして職員の人権意識の深化を図る。 ・児童生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三次とりまとめを踏まえた授業実践についての学部研修や人権課題に係る当事者を招いた職員研修を実施する。 ・子どもの権利条約等を基に「人権」や「人権が尊重された状態」について理解しやすい 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修において「第三次とりまとめ」を踏まえた授業づくりについて基本的な事項を確認できた。各学部の実践にどのように取り入れるか学部ごとに検討し授業づくりに生かすことができた。講師招聘による同和問題(部落差別)に関する研修では、当事者の話を聞くことで、当事者の立場に立った授業づくりにつ

			<p>の発達段階に即した、具体的な人権教育の推進を図る。</p> <p>・授業実践例や教材の集約及び整理を行う。</p>	<p>よう配慮して伝える。</p> <p>・職員が活用しやすいよう教材の集約と整理を行う。</p>		<p>いて理解を深めることができた。</p> <p>・人権教育の中で子どもの権利条約に関する授業を計画的に実施し、その中で人権に関する身近な事項について伝えることができた。</p> <p>・移転を機会に書籍や映像資料を整理・集約することができた。</p>
	命を大切に する心を 育む指導	自他の命を大切に する心や人権を尊重する 態度を育むことができたか	<p>・「自分が大切にされている」と児童生徒が実感できる環境づくりを行う。</p> <p>・「インターネット上の言動」に関して授業や日常生活における指導の中で児童生徒の人権感覚の向上を図る。</p>	<p>・全ての教科等の授業で「自己肯定感を育む支援」「自己選択、決定の場」等を意識して工夫を行う。</p> <p>・授業や日常のやり取りの中で児童生徒のインターネット上の言動の傾向を把握し、指導が必要な場合は本人が問題点に気付くことができるよう職員間で連携して指導を行う。</p>	B	<p>・各学部の人権学習や人権週間の取組、人権作品展への出品などをおして、児童生徒の実態に合わせて指導を行うことができた。人権が尊重された状態を具体化して児童生徒に伝えることについては更に工夫が必要である。</p> <p>・インターネット上での人権侵害については、顔を合わせない状況では齟齬が生じる可能性があること、掲載した内容等が簡単に取り消せないことなどを挙げ、ネット上の言動は人権を尊重して行う大切さがある点を指導することができた。</p>
いじめの 防止等	いじめ 問題の 未然防 止対策	児童生徒の 実態把握と 様子の観察 を日頃から 行うことが できたか	<p>・児童生徒の様子の変化の有無について日常的に学校全体で把握に努め、いじめの起こりにくい環境や状況をつくる。</p>	<p>・日常的に担任間や学部職員間で児童生徒の様子に関して情報共有を行う。</p> <p>・全校児童生徒のアンケート調査結果を活用し、発信を受けとめる体制や相談しやすい環境づくりを行う。</p>	A	<p>・気になる児童生徒の情報を、学部会や朝会等で迅速に情報共有し、未然防止に努めることができた。</p> <p>・1学期に高等部生徒向けアンケートを、2学期に県立学校「心のアンケート」を全学部で実施した。また各学期に学年や学級ごとに職員でいじめ問題について協議する場を設定し、いじめ問題の把握を行った。さらに各学部で子供たちが困りごとを相談しやすい雰囲気づくりに努めた。</p>
	いじめ 問題の 組織的 対応	いじめ問題 について組 織的かつ継 続的な対応 に取り組む ことができたか	<p>・いじめ問題に対する職員の感度を高めていき、組織的な対応を行う。</p> <p>・いじめ問題について</p>	<p>・校内研修を行いいじめ問題に係る組織的対応の重要性について共通理解を図る。</p> <p>・いじめ防止対策委員会で、いじめ問題に対する適切</p>	B	<p>・いじめ問題未然防止の研修を実施し、いじめ問題に対する組織的な対応や情報集約担当者の業務について確認を行った。</p> <p>・いじめ事案はなかったが、いじめ問題に関する聴き取り（事実確認）</p>

			原因や背景状況等を把握し、当事者間の継続的な指導支援を行う。	な対応や、解消に向けた継続的な取組等について確認し、必要に応じて全職員に情報を共有する。		のポイントについて外部専門家から助言を受け、今後の対応の参考となる知識やポイントを知ることができた。
地域支援	センター的機能の充実	人吉球磨地域の特別支援教育の拠点として、地域へ向けて積極的な発信と取組の充実を図ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校等や関係機関へ本校の役割や特別支援教育の情報を積極的に発信する。 ・本校コーディネーター及び職員の専門性向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「球磨支援通信」の内容をさらに充実させる。 ・巡回相談や研修等の様々な機会において巡回相談等のさらなる活用について周知し、地域の特別支援教育の充実を図る。 ・適切な就学、進学指導が行われるよう、様々な場面で進路指導に関して理解、啓発を行う。 ・校内研修や事例検討会等の実施により、本校教職員及び本校コーディネーターの専門性向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現在3号まで発行している。合理的配慮やパラリンピックに関する内容など、幅広い内容を情報提供することができた。 ・巡回相談の活用について周知を進めたところ、例年に比べ特別支援学級からの依頼が多く、教育課程や自立活動、交流及び共同学習に関する現状と課題を知ることができた。今後も様々な場面で啓発していきたい。 ・小学校（小学部）就学へ向けて年中児段階の教育相談が定着してきており、相談件数も増えている。中学校（中学部）進学、高等学校（高等部）進学に関する相談も早い段階からの相談の大切さと呼び掛けていきたい。 ・職員複数同行での巡回相談は難しかったが、分掌部会で情報提供をすることで、巡回相談等の実情や県内の現状と課題を部員と共有することができた。校内の状況によるが、今後も可能な範囲で職員複数同行による巡回相談を検討していく。 ・年度初めにトランスファーズに関する研修を実施することができた。また学部ニーズに合わせて研修の機会を持つことができた。今後も、他の分掌部と連携しながら、職員のニーズに応じた研修を実施していきたい。

保健安全管理	学校保健の充実	<p>う歯及び歯周疾患の予防に向けた指導の充実と歯科受診等の家庭への啓発が図れたか</p> <p>性に関する指導の充実が図れたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と養護教諭が連携し、歯磨きの習慣化、歯周疾患予防に向けた指導を、歯と口の健康週間等を活用し取り組む。 ・予防的受診について情報提供し、家庭と連携した口腔ケアを実施する。 ・「あいうべ体操」に全校児童生徒で取り組んでいく。 ・児童生徒の実態と指導の現状を把握した上で、学部を越えて一貫性・系統性のある指導の充実を図る。 ・性に関する指導について、職員や保護者の困り感を解消するための研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、11月に歯と口の健康に関する情報を職員、家庭に知らせる。 ・歯ブラシチェックを行い、歯ブラシの交換が必要な児童生徒に「歯ブラシ交換お知らせカード」を配付する。 ・歯科検診の結果を基に個別のブラッシング指導を行い、う歯がなかった児童生徒にも定期受診を促す。 ・児童生徒会による放送で「あいうべ体操」の実施を呼びかける。 ・各学部1年生と小学部4年生の保護者対象のアンケート調査を実施する。 ・性教育推進委員会にてアンケート結果を分析し、教務部と連携して次年度の年間計画を検討する。 ・性に関する指導を行う上での職員の悩みや要望に関するアンケート調査を実施する。 ・性に関する研修を保護者にも案内する。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月と11月に、歯と口の健康に関する情報をほけんだよりや掲示物で発信した。家庭で取り組んでもらえるように「あいうべ体操カード」を配付した。 ・歯ブラシの交換が必要な児童生徒へ、連絡帳で保護者に依頼した。 ・11月の歯磨き巡回指導では、動画や歯の模型や歯間ブラシ等を用いながら個別指導を行った。 ・11月は毎週水曜日の朝の放送で、児童生徒会の生徒に「あいうべ体操」の実施を呼びかけることができたが、クラスによって実施状況に差があった。 ・該当学年の保護者を対象に、子供に身につけてほしい力や家庭での性教育についてアンケートを行い、回答を担当と共有した。 ・性教育推進委員会と分掌部会で今年度の実践内容を共有し、学部間の一貫性・系統性を意識して次年度の年間計画の見直しを行った。 ・職員を対象に、性に関する指導を行う上での悩みや要望に関するアンケート調査を実施した。アンケート結果から見えた職員の困り感を外部講師と共有し、実践に即した研修内容にすることができた。 ・講師招聘研修を保護者にも案内し、リアルタイムとオンデマンドで配信したが、視聴回数は31回と伸び悩んだ。
--------	---------	--	---	--	---

地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校安全の充実	安全管理、生活安全に関する取組の充実による安全で安心な学校づくりができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検の確実な実施と、その後の迅速な対応を目指す。 ・災害発生等の緊急時対応について、職員が十分に理解し適切に対応できるようマニュアルの確認や見直し、訓練の実施を行う。 ・職員の危機管理意識の向上を目指し、ヒヤリハット報告の目標件数を年間50件とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検を確実に実施できるよう、集計シートの改善を行う。 ・安全点検で異常が見つかった際は安全点検担当と事務部で連携し、迅速に対応(調査修繕、業者依頼等)する。 ・事前に避難経路や人員報告、通報等の最重点事項について、全職員で共通理解を図る。 ・アンケート等で課題点や改善点を把握しマニュアルの見直しを行う。 ・校務支援システムへの掲載や朝会等をとおして全職員での情報共有を行う。 ・年2回、ヒヤリハット事例の分析を行い、傾向や具体的対策について報告する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月初めの校務支援システムでの全職員への周知と、グーグルクラスルームを利用した集計でスムーズに業務の進行ができた。 ・新校舎に移転したばかりで少ないが、事務部と連携して修繕や今後の対応等、速やかに行うことができた。 ・避難訓練や引渡し訓練を移転前後で実施した。マニュアルや実施計画を事前に周知確認したことで、訓練自体はスムーズに行うことができたが、人員の配置や経路等、課題が明らかになった。次年度に向けてマニュアルの見直しを行っている。 ・ヒヤリハット事案が生じた際に、校務支援システムへの掲載や朝会をとおして職員に情報共有し、危機管理意識を高く保つよう促すことができた。前期のヒヤリハット事案の分析を行い、傾向や具体的対策について、全職員と共有することができた。 ・ヒヤリハット件数は35件であった(R7.1/31時点)。全職員が今後も危機管理意識を高く保てるよう、朝会等をとおして積極的なヒヤリハット報告を促していく。
	防災教育の充実	地域・関係機関と連携した防災教育を推進することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、関係機関等と連携し、防災教育の充実を図るとともに、地域に向けて取組の発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の回覧板等で訓練等の周知を行い、理解啓発を図る。 ・防災教育の取組を学校ホームページや通信で発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・初期対応訓練や地震火災避難訓練について、実施1か月前に地区の回覧板で周知を行い、地域の理解啓発に努めることができた。 ・学級通信等で、避難訓練の実施状況等を周知した。2月の避難訓練後にホームページへ掲載する予定である。
	総合型コミュニティ・スクールによる地域との連携	コミュニティ・スクールの円滑な運営ができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会において、学校評価や取組の検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を学期ごとに1回ずつ、年3回実施する。授業参観や協議を実施し、本校の教育活動について意見交換や評価等を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・予定どおり年3回の協議会を実施した。取組に関して委員と活発な意見交換を行うことができ、評価や助言等を得ながら実際の取組に繋げ、教育活動の充実を図ることができた。

<p>保護者・地域社会から愛され支えられるパートナーシップの充実</p>	<p>保護者、地域から信頼される学校づくりを推進することができたか</p>	<p>・学校ホームページのアクセス数増加を目指す。</p> <p>・隣接する多良木中学校との連携協力を深める。</p> <p>・地域、関係機関への広報を推進する。</p>	<p>・各種行事、学習活動地域支援、進路に関する情報の充実を目指し積極的に更新を行う。</p> <p>・合同研修会を定期的に開催し交流を深め、協働する教育活動の実施に向け計画を行う。</p> <p>・各種メディアの取材等を活用し、地域、関係機関等に本校の教育活動を広報していく。</p>	<p>A</p>	<p>・全校及び各学部の取組や進路情報等、定期的に積極的な情報発信を行った。県特P研修会のオンデマンド配信や、記念式典テーマソングのダウンロード先としてHPを活用し、昨年度の総アクセス数46,135に対し、今年度の総アクセス数は175,672（+129,537・昨年度と共に1/31時点調べ）と大きな伸びが見られた。全職員で本校の取組を積極的に発信し確かな成果を上げることができた。</p> <p>・多良木中との合同研修会を実施した。双方のニーズを確認し、次年度に協働して行う活動の検討や整理を行うことができた。</p> <p>・新校舎移転に係る行事時にメディアへ取材依頼を行い、取組の発信を積極的に行った。今年度も近隣校との作品交流を実施し、本校の教育活動の理解や啓発を促進しながら、交流校の取組に学びを得る機会になった。様々な取組で地域や関係機関とのつながりを深めることができた。</p>
<p>交流及び共同学習の充実</p>	<p>各学部の実状に合わせて、地域との交流及び共同学習の充実を図ることができたか</p>	<p>・近隣の学校との学校間交流において、相互の児童生徒が目的に沿った交流及び共同学習が実施できるよう、更なる充実を目指す。</p>	<p>・担当者会を年2回実施し、年間における学校間交流の内容の検討や年度末の反省を行い一層の充実を目指す。</p> <p>・交流校と事前に十分な打ち合わせを行い、直接交流や間接交流など各学部の実状に合わせた学習を実施する。</p>	<p>B</p>	<p>・7月、2月に担当者間で打ち合わせを実施し、1回目に実施時期や内容の確認、2回目に年度末反省を行った。成果と課題をふまえ、次年度に向けて意見交換をすることができた。</p> <p>・児童生徒の実態を考慮した計画を、担当者同士で綿密に立てることで、各学部の実情に合った取組を行うことができた。</p>

4 学校関係者評価

- キャリアパスポートは、個別懇談を通して保護者と共有されているそうだが、内容としても良い取組だと思う。子供自身が学習に関する自己評価を通して自分で学びを振り返る機会は大切である。学ぶ意欲を持ち続けることにも繋がるのではないか。現在の様式には保護者のコメント欄がないそうだが、保護者としても一緒に深めていきたいものなので様式の検討等をお願いしたい。
- 新校舎に移転してのヒヤリハット案件の状況はどうだろうか。校舎の構造上、死角が多いと聞いていた。学校からの説明を受けて様々な対策を講じられていることが理解できた。引き続き安全面への配慮をお願いしたい。
- 先生方の忍耐力はプロとして尊敬している。人員不足への対応は苦慮されていると思うが、引き続き目標を高く保っていただきたい。
- 「問題行動」とはどのような内容があるのか。学校の説明を受けて、いじめ問題が無かったことは理解した。SNSにまつわるトラブル等があったそうだが、今後も関係機関や保護者と連携しながら、丁寧な対応を引き続きお願いしたい。
- 「あいうべ体操」は歯科口腔の健康を保つための手法の一つで、嚥下や発語を支える効果もあるとのこと。引き続き、保護者と連携しながら進めてほしい。
- 学校評価アンケートに職員の挨拶について意見が述べられていた。子供の学部に関わらず、もっと積極的に挨拶をしてほしい。
- 電話対応について、誰が対応する場合においても、学校としての受け応えになることを意識してほしい。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標に対する評価

児童生徒における「将来の心豊かな生活」や「自立と社会参加」の実現を目指す学校教育目標の達成に向けて、校長のリーダーシップの下で、職員一人一人が縦横の連携を行いながら様々な課題にも組織的に対応し、適切に職務を遂行することができた。12月に保護者と職員に実施した令和6年度学校評価アンケートの項目「学校への満足度」では、保護者98.5%、職員97.9%（ともに、A：満足している・B：だいたい満足している AB評価の計で算出）と高評価を得ることができ、概ね達成できたと考える。

2 本年度の重点目標に関する評価

- 自立活動の推進においては、昨年度の反省を踏まえて研究・情報教育部を中心に自立活動課題設定シートの見直しを行った。実態の分析・整理→中心課題の抽出一個に応じた目標設定までの一連の手順を整理し、シートの課題の改善を図ることができた。交流及び共同学習においては、今年度から近隣校と対面での学習を再開することができた。事前打ち合わせを十分に行う中で、双方にとって充実した活動を設定することができた。
- 一人一人の教育的ニーズに応じた教育の実施においては、各学部会で、児童生徒の情報や課題を全員で共有し、チームで指導・支援にあたることができた。危機管理においては、年度途中での新校舎移転のため、児童生徒への丁寧な事前学習、危機管理マニュアルの見直し、新旧校舎での避難訓練の実施、ヒヤリハットの逐次共有と、新たな学習環境における安全面の確保のため全職員で様々なシミュレーションを重ねながら尽力した。これまで大きな怪我や事故等はなく、一定の成果が認められる。
- 人権教育、保健教育においては、児童生徒の心身の調和的な発達を目指し、主任・主事を中心に様々な取組を展開した。講師招聘研修（人権・性教育）で教職員の資質向上を図り、研修内容を保護者と共有し、教育活動全般で教科横断的に育成を行うことができた。児童生徒の実態や特性に応じた指導内容の整理や検討が今後の課題である。
- ICT教育においては、今年度から授業支援クラウドシステムを正式導入したことで、システムの様々な利便性による授業の充実、児童生徒の思考・判断・表現力を引き出すための支援ツールとしての活用が進み、学習活動が大いに充実した。働き方改革においては、衛生管理者を中心としたチームで、職員の業務のスリム化、効率化を一步進めることができた。
- 家庭、地域、関係機関と連携した教育活動については、学校運営協議会委員の意見や助言を参考に、その都度改善を図ってきた。また新校舎に移転し、多良木中学校と隣接した学校運営がスタートした。多良木中学校職員との合同研修会や次年度の連携に関する会議等を重ねながら、職員間の連携の在り方や具体的な取組の実施に向けて一步進めることができた。センター的機能については、人吉球磨地域唯一の特別支援学校として、特別支援教育コーディネーターや各学部主事を中心に、研修や巡回相談、教育相談等で丁寧な対応を行い、各所から好評を得ている。地域の特別支援教育の理解・推進において一定の役割を果たすことができた。

6 次年度への課題・改善方策

1 働き方改革について

教職員の時間外在校等時間の縮減については、引き続き課題である。業務のスリム化についてはこれまでも取組を進めてきたので、次年度は定期的な業務の点検や様々なツールの活用による業務効率化の推進、また職員研修等を通して個々の意識改革を進めていく。教師の働き方改革が児童生徒の教育活動の充実に繋がることを全職員が心に留めながら、改善を図っていく。

2 家庭・地域との連携について

今年度の新校舎移転を経て、次年度からは地域との連携、隣接する多良木中学校との連携等を積極的に推進していく必要がある。多良木中学校とは次年度も定期的に合同会議を行いながら、様々な取組を展開する予定である。定期的に職員間の親睦を深めながら建設的な意見交換を行い、両校の児童生徒の交流及び共同学習の更なる充実、また職員間の専門性の共有、両校が協働する学習活動の実施等、実現に向けて取組を進めていく。地域との連携については、学校行事への地域住民の参加の呼びかけ等を検討している。本校の教育活動への理解・啓発を推進し、地域との信頼関係や協力体制の構築等を目指し、連携を深めていく。